

富山市 環境モデル都市行動計画

～コンパクトシティ戦略によるCO₂削減計画～
(第2次：2014年～2018年)

【概要版】



平成26年3月
富山市

1. CO₂削減に向けたこれまでの主な取り組み

- 富山市では、LRTネットワークの形成や、まちなか・公共交通沿線居住推進事業、自転車市民共同利用システムの導入、新エネルギーの普及促進、エコタウン産業団地、チームとやましなどをはじめとした「コンパクトシティ戦略によるCO₂削減計画」に取り組んでいます。

| 主な取組 | 取組の概要 |
|-------------------|--|
| LRTネットワークの形成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 富山港線のLRT化や市内電車環状線化を実施 ● 今後は路面電車の南北接続、市内電車の富山地方鉄道上滝線への乗入れを計画 |
| まちなか・公共交通沿線居住推進事業 | <ul style="list-style-type: none"> ● 都心地区と公共交通沿線居住推進地区において、良質な住宅の建設を行う事業者や住宅を購入する市民に対し助成 |
| 自転車市民共同利用システムの導入 | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した新たな公共交通手段として、ICTを活用した自転車市民共同利用システムを都心地区に導入 |
| 新エネルギーの普及促進 | <ul style="list-style-type: none"> ● 富山県産の杉間伐材を原料として木質ペレットを製造する施設が竣工 ● 北陸電力と富山市が連携して電気事業用メガソーラー（発電出力1MW）を整備 ● 農業用水を活用した2箇所の小水力発電施設を整備 |
| エコタウン産業団地 | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境にやさしい循環型のまちを目指し、省エネルギー、廃棄物のリサイクルなどによる資源循環型社会を築くため、「富山市エコタウンプラン」を推進 |
| チームとやまし | <ul style="list-style-type: none"> ● 企業・団体などが自主的にチームを結成し、「チームとやまし」のメンバーとなって具体的な地球温暖化防止行動とその目標を掲げ、活動PRイベントやホームページ上での情報交換など様々な活動を展開 |



2. 富山市の温室効果ガスの排出実態

- 富山市の温室効果ガス排出量は、2005（平成17）年～2010（平成22）年の間で7.6%減少しています。
- 運輸部門は4.8%の減少であり、近年、本市が進めている公共交通活性化を軸としたコンパクトなまちづくりが背景の一つにあると考えられます。

■富山市の温室効果ガス排出量（森林吸収量を除く）

単位：千t-CO₂

| 部門別排出量 | エネルギー起源CO ₂ | 2005(平17) | | 2010(平22) | | 増減率 |
|---------------------------------------|------------------------|-----------|--------|-----------|--------|--------|
| | | [基準年] | 構成比 | | 構成比 | |
| エネルギー起源CO ₂ | エネルギー転換 | 45.9 | 1.1% | 36.4 | 0.9% | -20.7% |
| | 産業 | 1,491.3 | 35.3% | 1,232.8 | 31.6% | -17.3% |
| | 家庭 | 709.3 | 16.8% | 697.8 | 17.9% | -1.6% |
| | 業務・その他 | 643.5 | 15.2% | 644.4 | 16.5% | 0.1% |
| | 運輸 | 960.1 | 22.8% | 913.7 | 23.4% | -4.8% |
| 非エネルギー起源CO ₂ （工業プロセス、廃棄物） | | 245.6 | 5.8% | 233.9 | 6.0% | -4.8% |
| CH ₄ , N ₂ O ※1 | | 78.8 | 1.9% | 73.0 | 1.9% | -7.4% |
| 代替フロン等3ガス ※1 ※2 | | 45.3 | 1.1% | 66.9 | 1.7% | 47.7% |
| 計 | | 4,219.8 | 100.0% | 3,898.9 | 100.0% | -7.6% |

※1：CH₄, N₂O, 代替フロン等3ガスはCO₂に換算した値で表示

※2：代替フロン等3ガスは、基準年が1995（平成7）年

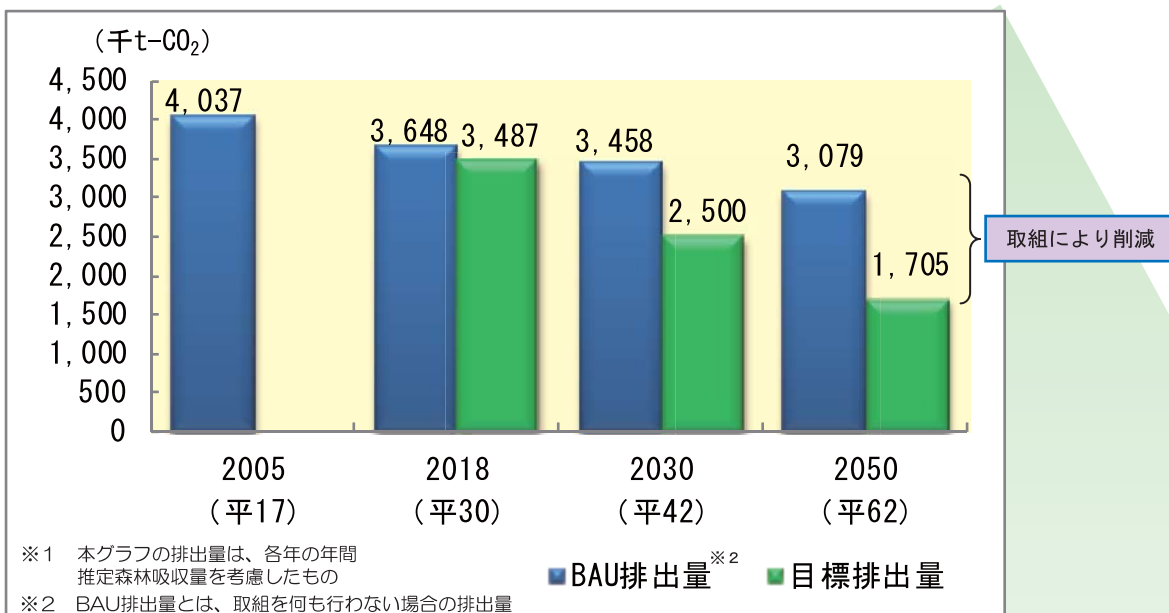
3. CO₂排出量の削減目標

- 「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本方針とし、行政・市民・事業者が一体となってCO₂排出量の削減に取り組みます。
- 富山市全体のCO₂排出量を基準年（2005（平成17）年）比で、2018（平成30）年に14%、2030（平成42）年に30%、2050（平成62）年に50%削減することを目指します。

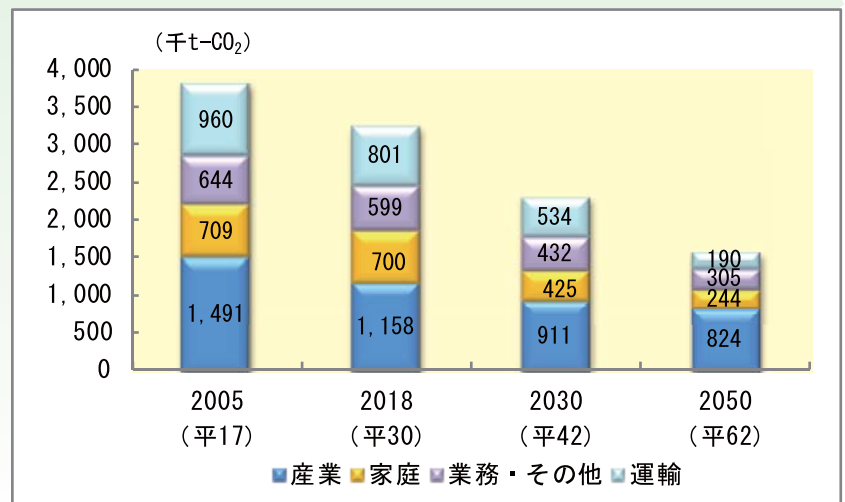
■富山市全体のCO₂ 排出量の削減目標（対2005(平成17)年比）

| 部 門 | 取 組 方 針 | 短 期 削減目標 2018年 (平成30年) | 中 期 削減目標 2030年 (平成42年) | 長 期 削減目標 2050年 (平成62年) |
|--------------|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 運輸 | 1 公共交通の活性化の推進 | 14%減 | 30%減 | 50%減 |
| 家庭 | 2 中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進 | | | |
| | 3 コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進 | | | |
| 業務・その他 産業 | 4 コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進 | | | |

■温室効果ガス排出量の推移^{※1}



■産業、家庭、業務・その他、運輸のCO₂排出量の推移（目標）



4. CO₂排出量の削減に向けた取組の方針

1 公共交通の活性化の推進

LRTネットワークをはじめとして、公共交通ネットワークの形成を図るとともに、鉄軌道、バス、自動車といった異なる交通モード間が連携したシームレスな移動環境を形成し、自動車利用から公共交通への転換を図ります。

2 中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進

中心市街地や公共交通沿線において、魅力的な住環境の形成と居住に対する支援を行いながら、商業・医療・福祉等の都市機能の集積を図ります。

3 コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進

郊外の戸建住宅から、まちなか・公共交通沿線の集合住宅への住み替え促進と戸建住宅の省エネ性能の向上を図ります。

郊外の戸建住宅においても、住宅の更新と合わせた省エネ性能の向上を図り、環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を促進します。

次世代エネルギーパーク等を活用するなど環境学習の機会や場の充実により、環境に対する市民意識の高揚を図ります。

4 コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

急流河川が多いという特性を活かした小水力発電や、市域の7割を占める森林を活かした森林バイオマスなど、地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入を促進します。

廃棄物由来の再生可能エネルギー（バイオマス発電、バイオマス熱利用、バイオ燃料等）を多様な産業活動に活用することで、資源・エネルギー循環の面的な展開と産業活動の効率化を促進します。

産業施設や業務施設の省エネルギー性能の向上、都市開発の機会を捉えた高効率なエネルギーシステムの導入のほか、自動車利用の見直し、就業空間、生産活動の低炭素化により、環境負荷の少ないワークスタイルや生産活動への転換を促進します。

5. 目標達成までの道筋 ~短期・中期・長期ステージの位置付け

環境モデル都市選定：2008（平成20）年

…当初計画に基づく低炭素社会形成に向けた環境整備、制度設計・試行、モデル開発への支援

現在：2013（平成25）年

低炭素社会形成に向けた社会システム・要素技術のモデル確立・基盤形成

…各種モデルが民間の自律的な活動へと離陸するまでの取組を支援
…低炭素製品・商品・サービスの市場開拓支援

中期：2030（平成42）年

低炭素社会形成に向けた社会システム・要素技術の普及期への移行

…民間が主体となった本格展開、行政は側面支援に移行

長期：2050（平成62）年

コンパクトシティによる低炭素社会の実現

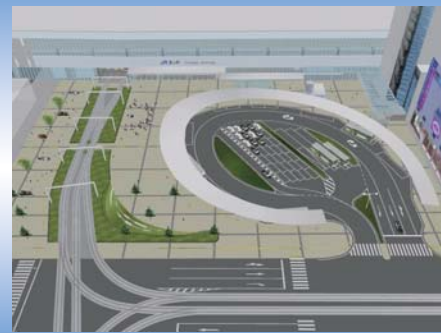
6. CO₂排出量の削減に向けた取組の全体像



7. 5年以内に具体化する主な取組

(1) 路面電車の南北接続

富山駅の高架化と富山駅周辺の整備にあわせ、駅北側にある富山ライトレールの軌道を南側の市内路面電車軌道に接続し、路面電車の南北一体化を図り、路面電車のネットワークを構築します。



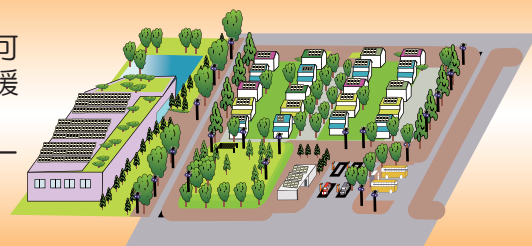
(2) 西町南地区での再開発

再開発事業の一環として中心市街地の西町南地区において、業務及びガラス美術館や図書館などの複合施設の整備に対して支援し、まちなかの魅力創出と中心市街地の活性化を図ります。



(3) 新エネルギーの導入などによる低炭素住宅の普及

太陽光発電システムやペレットストーブ、エネファームなど、再生可能エネルギーやエネルギー効率の高い住宅用省エネ設備に対して支援し、省エネルギー・新エネルギーの導入を促進します。新たな住宅団地での戸建住宅の建設においては、建物の省エネルギー化やCO₂排出量の抑制を図る低炭素住宅を普及します。



(4) 次世代エネルギーパーク等を活用した環境意識啓発の推進

平成24年1月に「次世代エネルギーパーク」として認定を受けたことから、富山市内の地域特性を生かした小水力発電、太陽光発電、木質バイオマス燃料製造施設、バイオマス発電施設などの新エネルギー施設を活用し、小中学生の環境学習や市民のエコツアーの拠点として啓発活動を行います。



(5) 農山村活性化に向けた新エネルギー施設・整備の導入

農業用水を活用した小水力発電設備等の整備を推進し、農業用施設の維持管理等に係る農家負担の低減を図ります。発電した電力は農業機械やEV等で活用するほか、余剰電力の売電収益を活用した環境配慮型の農業農村振興事業の展開などにより、地球温暖化対策と農山村の活性化を一体的に推進します。



8. 実現に向けた推進体制

1. 行政機関内の連携体制

- 庁内に設置した「コンパクトなまちづくりによるCO₂削減推進本部」により、環境、都市計画、交通、中心市街地活性化、農林、住宅、商工、福祉、文化、教育行政等の関係課が広く参加することで全庁的な連携体制をとります。
- 「コンパクトなまちづくりによるCO₂削減推進本部」では、PDCAサイクルにより、事業の推進とその効果測定等を実施し、効果的な環境負荷低減に向けて継続的な取組を推進します。
- 環境未来都市計画の取組との連携を図りながら、効率的・効果的に取組を推進します。

2. 地域住民等との連携体制

- 「チームとやまし」は、市内の団体・事業者などが自主的にチームを結成し、具体的な温暖化防止行動とその目標を掲げ、市長がキャプテンである「チームとやまし」のメンバーとなって取り組むことで市民総参加の行動へと広げ、成果を上げていく民間提案型の取組です。
- この「チームとやまし」をもとに、市域全体に地球温暖化防止行動を広げていきます。

3. 大学、地元企業等の知的資源の活用

- 全体的な推進に対しては、富山市と包括提携を結んでいる富山大学をはじめとする地元大学や富山市新産業支援センターなどの学術機関、地元企業との連携を強化しながら、地元の産官学の知的資源の活用を図ります。
- また、個別施策に対しては、エネルギー事業者やエコタウン事業者、商工会議所、交通事業者、住宅メーカー等と協力体制を築き、効果的な事業推進を行います。

編集：富山市環境部環境政策課

〒930-8510 富山市新桜町7番38号

TEL 076-443-2053 FAX 076-443-2122

富山市ホームページ <http://www.city.toyama.toyama.jp>



環境モデル都市富山
ECO-MODEL CITY TOYAMA